

1. 授業のねらい・概要

財務会計は、株主、債権者、税務当局、従業員、消費者などの企業外部の利害関係者に対して、企業の状況を明らかにする外部報告会計であることから、社会的な性格を強くもっており、一定の社会的規範または法律制度的な枠組みを必要としている。そこで、本講座では、現行会計制度の枠組みを形成している企業会計原則および会社計算規則などの会計諸則を中心に解説し、その理論的な根拠を吟味することを主な目的とする。

財務会計論Aでは、主に財務会計の基礎理論、損益会計および財務諸表について平易に説明する。

2. 授業の進め方

基本的には下記のテキストを使用して、わが国の企業会計制度について平易に説明する。

また、授業内容の理解を確かなものにするため、最近の会計記事等を中心とした時事的話題を取り入れて講義する予定である。

3. 授業計画

1. 会計学の研究領域（ガイダンス）	9. 収益の認識基準
2. 財務会計の基礎概念	10. 費用の認識基準
3. 企業会計原則の内容	11. 収益・費用の測定基準
4. 企業会計制度のしくみ	12. 財務諸表の体系
5. 一般原則(1)- 真実性、正規の簿記、重要性	13. 損益計算書と包括利益計算書
6. 一般原則(2)- 資本と利益の区別、明瞭性	14. 貸借対照表と株主資本等変動計算書
7. 一般原則(3)- 継続性、保守主義、単一性	15. 注記と附属明細表
8. 現金主義会計と発生主義会計	

4. 到達目標

毎回の授業計画の課題に対して、その概要が言えることを到達目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、又はそれに準ずる程度の具体的な学修内容

毎回授業の前までに、シラバスの範囲についてあらかじめ30分以上はテキストをみておくことが必要である。

6. 成績評価の方法・基準

主に期末試験の結果により評価するが、授業態度などを加味することがある。

7. テキスト・参考文献

[テキスト]

桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社

[参考文献]

『新版会計法規集』中央経済社

8. 受講上の留意事項

1年次の必修科目である会计学基礎をはじめ、簿記論、会计学総論などの会計関連諸科目を履修していることが望ましい。